ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

coop

94

2021. 5. 13

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の兵庫県内の協同組合組織相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して－協同が息づくまちづくり－」を基本理念として、共通行動目標の実践に取り組んでいます。

Contents

1．協同組合活動スナップ …… 1
2．2020年度「虹の仲間づくりカレッジ」を開催 …… 2
3．協同組合間協同によるコロナ禍の学生支援活動
　県産食材を使った大学生協食堂での食の支援を実施 … 4
4．兵庫JCC2021年度活動計画 …… 5
5．今協同組合では－各協同組合からの報告－
　JA（農協）／JF（漁協） …… 6
　生協／JForest（森林組合） …… 7
6．協同組合運動に生きる
　森林環境譲与税の活用と森づくりサポートセンター
　兵庫県森林組合連合会　業務第1課　課長　兼
　ひょうご森づくりサポートセンター長　山田　裕司 …… 8

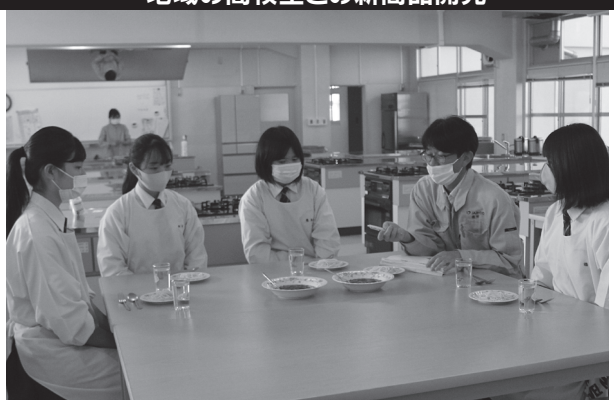
協同組合活動スナップ

兵庫県生協大会を開く

生協

11月12日（木）「兵庫県生協連創立70周年記念 2020年度兵庫県生協大会」を開催。生協功労者表彰「兵庫県知事感謝」「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が会員生協の役員・職員に贈られました。

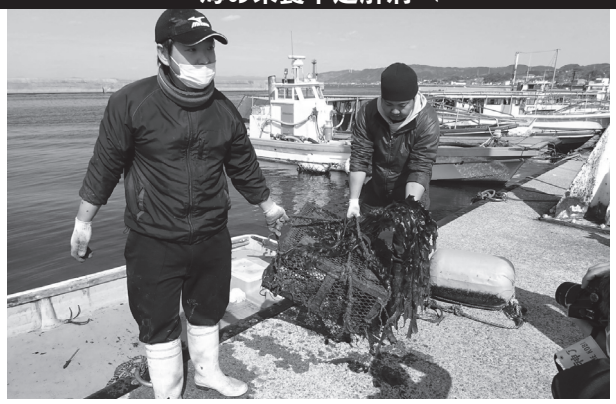
地域の高校生との新商品開発



JA（農協）

JAグループは、地域の食と農に根ざした組織として、特産物の魅力を発信するために様々な取り組みを進めています。JAみのりでは、2017年度から県立社高校生活科学科と共同開発プロジェクトを立ち上げ、地域の農畜産物を使った新商品の開発に取り組んでいます。

海の栄養不足解消へ



JF（漁協）

瀬戸内海では、海中の窒素やリンの栄養塩が不足し資源減少の要因となっています。これらを解消するため、JF育波浦では栄養塩添加による海藻の育成効果について試験を始めました。様々な活動を通じ、生産性のある豊かな海を目指します。

リモートセンシング技術者養成研修の開催

JForest（森林組合）

森林組合等の職員を対象に造林事業等への対応に特化した、リモートセンシング技術の習得を図る研修を全4日間の日程で2回開催しました。

●編集発行
兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

●兵庫 JCC 事務局
兵庫県生活協同組合連合会　TEL(078) 391－8634
兵庫県農業協同組合中央会　TEL(0794) 87－0062
兵庫県漁業協同組合連合会　TEL(078) 940－8013
兵庫県森林組合連合会　TEL(078) 381－5425

2020年度「虹の仲間づくりカレッジ」を開催

兵庫ＪＣＣでは、協同組合の次代を担う職員同士が顔の見える関係をつくり、くらし、地域、社会の中で果たすべき役割についてともに考えることを目的に、2015年度から生活協同組合コープこうべとの共催で「虹の仲間づくりカレッジ」を開いています。

この虹の仲間づくりカレッジは、受け身的な研修ではなく、班を編成し、開催の期間を通じて課題を解決するためのイベントの企画、実施、そして成果の発表までを行います。第１回では、地域や社会が抱える課題を認識し、それに対する解決策について話し合いました。第２回では、第１回を受けて詳しい解決策について話し合い、実際に課題を解決するためのイベントなどを企画します。そして第２回から第３回までの間でそのイベントを実施し、第３回では結果報告を行います。

今年度で６回目の開催となる虹の仲間づくりカレッジでは、これまで様々な企画を実践しました。各年度のテーマと各班が実践した企画は以下の表の通りです。

年度	テーマ	人数	実践企画
2015	「自分の仕事協同組合のミッションがつながる」 ～乖離しがちな協同組合の理念と日々の業務の関係性について考える～	33	・大学生対象の食育 ・協同で企画する職員研修 ・ギブミーベジタブル協同組合間協同バージョン ・高齢者・障がい者に食を提供できるシステム ・次世代エネルギー ・都市農山漁村（農山漁村同士を含む）グリーンツーリズム ※2015年度は企画のみ
2016	漁協青壮年部で取り組まれている「流通消費拡大事業」を軸にした、大学生を対象とした協同組合協同による食育推進 ～ 2015 年度の受講者のアウトプットから～	33	１班：地元の恵みたっぷり兵庫鍋を作ろう！ ２班：学生食堂での兵庫県産食材を使った朝食メニュー（しらす丼）の提供 ３班：大学生対象　牡蠣の殻むき等作業体験 ４班：大学生対象　料理教室　～兵庫の魚を食べよう！～食べて守ろう兵庫の海～
2017	『生産』『環境』『地域のコミュニティ』などが抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」という視点で取り組む『職員ボランティア活動』の実験的展開	16	１班：淡路島で漁業者と農業者が連携したため池のかいぼり活動 ２班：社家郷山で生態系・森林保全を学ぼう！ ３班：さる×はた合戦～篠山での害獣対策の取組～

年度	テーマ	人数	実践企画
2018	『生産』『環境』『地域のコミュニティ』などが抱える課題を「協同組合という視点で考え、実践につなげる	26	１班：協同組合合同インターンシップ ２班：ごみ問題を解決する（食品残渣のたい肥化など） ３班：海の豊かさを伝えよう！（知ってほしい未利用魚や食文化） ４班：次世代に向けた見える化～協同組合を知ってもらうために～（賀川記念館での学習など） ５班：地域のつながりづくり（移動店舗の拠点でのセミナー等）
2019	『生産』『環境』『地域のコミュニティ』などが抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」という視点で考え、実践につなげる	22	１班：木を食べる（森林をめぐる問題を知り、木をもっと使ってもらう） ２班：地域活性化（若年層の地元意識の希薄化→地元の良さを知る） ３班：海ごみ・マイクロプラスチック採取とペットボトル菜園 ４班：ジェンダー平等（〇〇家作戦会議・料理教室）

2020 年度は、当初 5 月からの開催を計画していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、予定を変更し、2021 年 2 月 25 日に第 1 回をコープこうべ協同学苑で開きました。今年度は各協同組合の若手・中堅職員を中心に 12 人が参加しています。

コープこうべ協同学苑の浅田克己学苑長が、協同組合間協同によって地域の課題を解決する必要があると、全国の協同組合間協同の事例を紹介されました。また、これまでの虹の仲間づくりカレッジの取り組みについて、生活協同組合コープこうべの齋藤優子氏から概要の説明がありました。

その後、3 班に分かれて、コロナ禍の中で、ＳＤＧｓの目標をふまえ「生産」「環境」「地域のコミュニティ」などが抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」という視点で話し合い、班として取り組むＳＤＧｓの目標の設定し、課題を解決するための活動について意見を出し合いました。

第 2 回は 5 月 21 日に開き、9 月までに行う実践活動の具体的な計画づくりを行う予定です。

講演を受けて企画作りをすすめました

講演するコープこうべ浅田克己学苑長

協同組合間協同によるコロナ禍の学生支援活動
県産食材を使った大学生協食堂での食の支援を実施

2020 年 11 ～ 12 月兵庫 JCC は、県産新米や県内で水揚げされた水産品各 5,000 食分相当を無償提供し、県内 10 大学生協の食堂スタッフが調理加工して安価で美味しい丼メニューでコロナ禍の学生の食生活を支援した。コロナ禍で休講やオンライン講義が長引き孤立したりアルバイトの減少で困窮しがちな学生を、協同組合の仲間が連携することによって食の面から元気づけたいとの思いで実現した。かねてより魚食の普及を図る活動を大学生協と連携して兵庫県漁連が実施していたこともあり自然豊かな兵庫ならではの企画が実現した。感染防止対策で間隔を空けて席が設けられた食堂を訪れると笑顔でクロダイ天ぷら丼を食する学生の姿が見られ、聞くと「美味しい」と話していた。届けられた食材は以下の通り。

兵庫県産新米 1.3 トン（丼約 5,000 食分）。釜揚げシラス・ハタハタ (磯部揚げ半加工)・赤エイ (唐揚げ半加工) 各 1,000 食分、クロダイ (天ぷら用切身)2,000 食分。

食堂での提供の様子

協同組合間協同による一次産業振興、地域支援の取組に向けた
情報収集・現状調査チーム オンラインで情報交換を実施

兵庫 JCC では、一次産業振興による地域支援を進めるため、協同組合が連携して、兵庫県内の産地の現状について情報収集や現状調査を行う調査チームを 2019 年度に立ち上げました。

調査チームは 2 月 13 日に、放置竹林の有効活用を進める「あわじ里山プロジェクト」のメンバーと淡路島で地域振興をテーマに研究活動をしている龍谷大学の学生と情報交換会を開催しました。

情報交換会では、あわじ里山プロジェクトの方から淡路島の放置竹林の幼竹を用いた国産メンマの「あわじ島ちく」について報告がありました。現在は個人や飲食店、産地直売所に出荷されており、洲本市のふるさと納税返礼品となっています。

龍谷大学の学生は、塔下新池班（洲本市五色町鮎原塔下で栽培される鮎原米の広報活動に取り組む）、千原竹原班（あわじ花山水キャンプ場の広報活動に取り組む）、連携づくり班（パンフレットには掲載されない地域の日常や何気ない風景や文化に触れることで、地域や集落への回路を開く活動をする）、そして竹ビジネス班（放置竹林の解決を目指して淡路島産のメンマを生産・販売する）の 4 つの班に分かれており、それぞれの班が行っている研究活動の報告がありました。また、竹ビジネス班からは「あわじ島ちく」を用いたレシピの提案がありました。

あわじ里山プロジェクトの
リーフレット

兵庫JCC2021年度活動計画

目的：協同組合の原点学習や協同組合間協同の推進に向け、取り組みをすすめる。

企画名	内容	規　模	実施日
第 99 回 国際協同組合デー・ 兵庫県記念大会	テーマ：「協同の力で未来を拓く」 講　演：「あなたの選択で変わる30年後の天気予報」 講　師：正木　明　氏	約150人	7月2日(金)
虹の仲間づくりカレッジ	目　的：県内協同組合の職員の交流を通した協同組合間協同の実現 テーマ：SDGs の目標をふまえ『生産』『環境』『地域のコミュニティ』などが抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」という視点で考え、実践に繋げる。	約15人	①8月4日(水) ～5日(木) ②10月6日(水) ③3月2日(水)
第 4 回 都道府県協同組合連携組織　全国交流会議	全国の協同組合の仲間が連携事例の共有やこれからのあり方について交流を深める。	―	実施日未定
虹の仲間で森づくり・海づくり	兵庫県漁連とコープこうべが取り組んでいる森づくり活動や海づくり活動に兵庫 JCC の参加を呼びかける。	約100人	実施日未定
協同組合 研究・交流会	豊かな暮らしを支える生産・流通・消費の相互理解を深め、生産者と消費者の交流に取り組む。生協、農協、漁協、森林組合の各団体が、互いの事業と活動を学習・共有化し、今後のさらなる協同・連携を促進する。	約40人	実施日未定
ひょうごまるごと 健康チャレンジ 2021	2018 年度から取り組みはじめた「ひょうごまるごと健康チャレンジ」を生協・農協・漁協・森林組合が合同で認知度の向上や参加者拡大に取り組む。すべての人の共通課題である「健康づくり」を協同組合はもちろん、兵庫県民の心と体の健康づくりに貢献する取り組みとする。	―	7月～予定
一次産業振興・地域支援	一次産業振興の取り組みとして、兵庫県の豊かな資源の把握と活用を各団体が連携し進める。		随時
PHD運動（※）への協力	各協同組合のなかで PHD 運動を紹介する取り組みをすすめる。	―	―

諸般の事情により、内容等変更になる場合があります。

（※）公益財団法人 PHD 協会とは

【設立の経緯】

1962 年からネパールを中心に約 20 年間海外で医療活動に従事してきた岩村昇医師が、自らの活動経緯と反省をふまえ､「物」「金」中心の一時的援助を越えた草の根レベルの人材交流･育成を提唱して 1981 年 6 月に設立。

【組織の目的】

1．アジア・南太平洋地域からの研修生の招聘、研修後のフォローアップを通して、草の根の人々による自立した村づくりと生活向上に協力すること。

2．日本の人々もアジア、南太平洋地域の人々との交流を通して学び、そこから毎日の生活を問い直し、平和（Peace）と健康（Health）を担う人材を育成（Human Development）し、「共に生きる」社会をめざすこと。

今 協同組合では　―各協同組合からの報告―

JA（農協）から

ＪＡ営農指導員研修大会を開催

ＪＡ兵庫中央会は2月 19 日、兵庫県農業会館でＪＡ営農指導員が日頃の活動実績を発表し相互研鑽を図ることを目的に 2020 年度ＪＡ営農指導員研修大会を開催しました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、事前に収録した8ＪＡ8人による発表動画を用いて審査会を実施。活動内容や発表態度、地域農業の振興、担い手の育成・支援、販売力の強化に対する貢献度等を基準に審査し、「ブラックビートでのぶどう産地復活にむけて」と題して発表したＪＡ兵庫みらいの玉田篤志さんが、最優秀の兵庫県知事賞を受賞しました。

玉田さんは、古くからのブドウ産地である加西市で、ブドウの生産量が年々減少している状況を踏まえ、大粒のブドウで需要が高まる盆前に出荷可能な品種「ブラックビート」に着目。兵庫県認証食品「ひょうご推奨ブランド」の取得、出荷方法や企画などを定めた出荷マニュアルの作成、ミニのぼり旗や店内広告資材によるＰＲなど、関西一のブドウ産地としての復活を目指す取り組みを発表しました。

発表動画の審査の様子

他の受賞者およびテーマは次の通り。

・県中央会会長賞
　ＪＡ丹波ひかみ　黒田裕希　「ドローンリモートセンシング技術を活用した新しい水稲営農指導の確立」
・全農兵庫運営委員会会長賞
　ＪＡ兵庫六甲　亀尾航平　「農業の可能性を再発見し挑戦する機会を作る」
　ＪＡ丹波ささやま　藤田謙介　「夏の枝豆『デカンショ豆』の取り組みについて」

JF（漁協）から

JF 兵庫漁連　SEAT-CLUB　オンライン料理教室開始！

JF 兵庫漁連は、明石市にある兵庫県水産会館にて魚を使った様々なジャンルの料理教室を行っています。しかし、新型コロナウイルスにより料理教室を開催できない時期が続きました。そこで、外出することなくご自宅にいながら料理教室が受講できるようオンライン化の準備を整え、2020 年 10 月よりオンライン料理教室を開始しました。

オンライン教室は ZOOM を使用しておこなわれ、受講に必要な魚・野菜等の材料はこちらからご自宅にお送りさせていただき、講師と一緒に調理します。

また、教室は毎月一回土曜日の開催となっており 14 時～ 15 時、15 時 30 分～ 16 時 30 分となりますので、そのまま夕飯にも使えます。

詳しくは、右記の QR コードにてご確認ください。

SEAT-CLUB

SEAT-CLUB
Instagram

オンラインならでは、
北海道からの参加もありました。

生協から

「保健・医療・福祉研究会」講演会を開催

兵庫県生協連は、1991 年から「保健・医療・福祉研究会」を設置しています。研究会では、長寿社会が進むなか、医療・福祉のあり方や生協が果たすべき役割について考えていくことを目的に医療生協や購買生協から担当者が集まり、生協間での情報共有や研究テーマを決め、講演会や先進事例を学ぶ見学会を実施しています。

2020 年度は、スウェーデンの介護事業の状況やコロナ禍における生協の役割について学ぼうと、12 月 2 日（水）、大阪大学大学院の斉藤弥生教授にお越しいただき「なぜ今、協同組合なのか？協同組合と地域包括ケア」と題して、講演いただきました。

第 2 次世界大戦以前から協同組合の活動が広まり、国民が主体となることで福祉国家となったスウェーデン。同国のコロナ禍の状況や、超高齢社会において地域共生社会を支える生協、協同組合への役割や期待について話していただきました。会場とオンラインで参加した会員生協の役員・職員にとって、今後の活動を進める意欲が更に高まる講演会となりました。

対面（会場）とオンラインのハイブリッド型で開催

斉藤教授の講演

JForest（森林組合）から

山林の取得

昨年、兵庫県森林組合連合会では、神崎郡神河町にある約 50ha の山林を購入しました。これにより、今後は県森連が自ら山林の利用価値を業界内外に示すことや職員等の研修の場として活用していくことが可能となりました。2020 年度は購入した山林をこれから活用していくための整備を行いましたので、ご紹介します。

この山林は大半が利用期を迎えたスギとヒノキの人工林で占められています。持続可能な森林経営を行っていくためには、森林の成長量や蓄積を踏まえた伐採を行い、適切な更新と整備を進めていくことが重要です。2020 年度事業では、利用期を迎えた立木（りゅうぼく）を伐採するために、作業道の開設工事を行いました。

作業道とは奥地にある立木を伐採・搬出を行う重機や林内作業車（フォワーダ）が通るための道で、普通自動車は走ることを想定していない道のことです。そのため、水が湧いている場所以外はアスファルト等の舗装はなく、基本的に土砂のみの構造になっています。今回は全長約 1,700m の作業道を開設しました。2021 年度事業においても 2 路線の作業道を開設予定です。

作業道

今後は、開設した作業道を使って立木を伐採し、伐採後の跡地には苗木を植栽する予定です。

また、伐採木のうち優良材は木材の市場へ出荷し、それ以外は県森連が運営するバイオマスエネルギー（be）材供給センターへの運搬を計画しています。

県森連の所有林を通して、多くの方に林業そのものや林業における持続可能な開発目標（SDGs）を知って頂き、皆さんの組織や私生活においても兵庫県産木材を選択・利用して頂くきっかけにできればと思います。

※関連する SDGs の目標

協同組合運動に生きる

森林環境譲与税の活用と森づくりサポートセンター

兵庫県森林組合連合会　業務第１課　課長　兼
ひょうご森づくりサポートセンター長　**山田　裕司**

国土の３分の２を占める森林約 2,500 万 ha のうち、スギやヒノキなどの人工林は 41％約 1000 万 ha です。兵庫県においても、森林面積 53 万 ha（民有林のみ）のうち、人工林が 42％約 22 万 ha を占めています。これらの人工林は、終戦直後や高度経済成長期に植栽されたものが多く、現在は半数以上が 50 年生を越え伐採時期を迎えています。しかし、国有林や公的な管理が行われている人工林を除き、個人所有の人工林（私有人工林）は、手入れがなされず管理放棄されたものが多く存在します。私有人工林の管理放棄は、木材価格がピーク時の２～３割程度で下げ止まりしているという、価格低迷が大きな要因であることに間違いありません。その他に私有人工林の課題として、森林所有の所有形態と保有面積の歪さがあげられます。

民有林は5ha未満の小規模な個人所有者が多く、これらの小規模な所有者が全体の９割を占めていますが、その森林面積は、民有林全体の３割に過ぎず、１割の大規模所有者が民有林全体の７割程度を占めています。９割を占める小規模森林所有者が森林管理放棄の主役になっており、森林整備を進める高いハードルになっています。

これらの私有人工林の管理対策として、令和元年度から新たな森林経営管理制度が始まりました。新たな制度ではこれまで森林所有者と森林組合など林業事業体が民対民の契約で行っていた森林整備について、市町が仲介することにより、多くの小規模な個人所有者に対しても森林整備を促すものです。市町が所有者の意向を確認したうえで、林地を集積し採算に合う箇所は林業事業体に引き渡す。採算に合わない箇所は、市町が自ら森林整備を実施していくというものです。市町が森林整備をする財源として森林環境譲与税も創設されました。森林環境譲与税は、使途が森林整備や木材利用など、森林整備に関することに限定されており、市町自らが地域の課題や実態に合わせて施策を展開していくこととなります。

兵庫県内では、中部北部の人工林の多い市町では、上記の森林経営管理制度に即して、森林環境譲与税を活用しながら人工林対策等を実施しています。一方で、県南部や阪神地域の市町は、人工林も少なく森林組合のない市町も多く、従来から森林に対する独自施策を行なってこなかったため、担当者ですら自分の市町の森林の配置状況や実態が明確でないことが多いようです。そのため、財源として森林環境譲与税が譲与されても、何をしたらよいのか、何が課題でどういった施策展開していくのがいいのか、途方にくれている担当者が多くいます。

そこで、我々森づくりサポートセンターでは、市町ごとにヒアリングを行い、森林の情報や実態を説明しながら課題を共有し、市町の実情にあわせた森林整備が行えるよう支援しています。具体的には、国や県の既存事業の実施要領等を提示し、採択基準に満たないような小規模な森林整備について、実施可能な事業メニューを複数提案します。また、市町全体の将来的な計画やビジョン策定を希望される場合は、他市町の事例等を紹介のうえ、コンサルを選定するための仕様書案やプロポーザルの実施要領案を作成することもあります。また、意向調査を実施される場合は、調査様式の作成や、所有者との協定書の作成を実施することもあります。あるいは、GIS による森林管理情報の提供や、GIS の操作そのものを指導することもあります。このように森づくりサポートセンターは、市町担当者の困りごとすべてお手伝いする方針のもと、多岐にわたる業務を実施しています。

市町の担当者は数年で配置換えがあり、ほとんどの担当者は初めて森林行政をすることになります。今後も、担当者に寄り添い信頼関係を築きながら譲与税の活用を共に考え、県内の森林整備が少しでも進むように励んでいきたいと思っています。